

【保存版】

**いじめ防止基本方針
(改訂版)**

茅ヶ崎市立梅田小学校

令和5年10月

茅ヶ崎市立梅田小学校いじめ防止基本方針

1 いじめ防止に係る基本的な考え方

(いじめの認知)

われわれ教職員は、被害児童から「心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じた」と訴えがあったものすべてをいじめとして認知する。

また、周囲の児童や保護者から同様の情報提供があったものをいじめとして認知する。

(本校職員のいじめに関する基本的な姿勢)

- 「いじめは今もどこかに潜在している」という認識を全職員が持ち続ける。
- 「いじめは絶対に許さない」という姿勢を全職員で全校児童に発信し続ける。
- 「いじめを見逃さず、いじめに立ち向かう」意識を常に持ち続ける。
- いじめに関する情報をリアルタイムで共有し、チームで対応する。
- 家庭や地域、関係機関と連携を図り、複数の目で児童を見守る体制を構築する。

(いじめの禁止)

本校児童は、いじめを行ってはいけない。

(学校および教職員の責務)

梅田小学校は、いじめが行われることなく、すべての児童が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるよう、保護者・地域・関係機関との連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に努めるとともに、いじめが疑われる場合には、迅速かつ適切に対処し、再発防止に取り組むものとする。

(いじめ対応に係る職員の行動指針)

- 児童に対し、教師が日常的に「いじめは絶対に許さない」という態度を示すこと。
- 日常の中の「冷やかし・からかい」「悪口・陰口」等の事案を見逃さず、その行為の是非を明確に伝え、適切に指導すること。
- いじめの情報を入手した際は、関係児童から迅速かつ適切に聞き取りを行い、事実確認を行うこと。また、入手した情報は、必ず記録しておくこと。
- いじめ問題の対応にあたっては、複数職員で対応するとともに、速やかに状況を管理職並びに教育相談コーディネーターに報告すること。

2 いじめ防止に関する内容

(1) いじめ未然防止のための取り組み

- ①児童の豊かな情操と道徳心を培い、心の通うコミュニケーション能力の素地を養うため、特別活動等の充実を図るとともに、朝会や道徳の授業で自己の役割や責任を果たそうとする態度やより良い人間関係を築こうとする態度を育てる。
- ②日頃の授業や行事等特別活動の中で、自己決定の場を用意し、誰もが活躍できる機会を設定することで、自己の有用性を実感し、自己肯定感を持てるようにする。
- ③地域や保護者、その他関係者との連携を深め、地域全体で児童を見守る体制づくりに努める。
- ④インターネットを通じて行われるいじめの防止に向け、児童・保護者の危機意識を喚起する。また、関係機関・団体による情報モラルに関する授業を設定し、保護者及び児童に対して啓発活動を行う。
- ⑤いじめは絶対に許されない行為であるという認識に立ち、全職員がいじめの様態や特質等について校内研修や職員会議を通して共通理解を図り、組織的に対応する。

(2) いじめ早期発見のための取り組み

- ①いじめを早期に発見するため、児童に対し定期的な調査を次のとおり実施する。
 - 「学校生活アンケート」調査（5年保存）
年2回（7月・1月）
 - 学校評価に関わる児童の学校生活認識調査
年1回（12月）
- ②児童や保護者がいじめに係る相談を円滑に行うことができるよう、次のとおり相談体制を整備する。
 - スクールカウンセラーの活用【月2回来校】
 - 心の教育相談員の活用【おはなしポストの設置・個別相談】
 - いじめ相談窓口の広報
- ③相談・通報のあった事案は複数で情報の共有に努める。
- ④いじめの防止対策に関する職員研修を年間計画に位置づけて実施し、いじめ対応に関する職員の資質向上を図る。

(3) いじめ早期解決に向けた取り組み

- ①いじめを見た、または疑いがある行為を見た場合は、すぐにその行為をやめさせる。
- ②いじめに係る相談を受けた場合は、速やかに事実確認をする。
- ③いじめの事実が確認された場合は、速やかにいじめをやめさせ、その再発を防止するため、いじめを受けた児童及びその保護者に対する支援を継続的に行う。
- ④いじめを行った児童に対しては、いじめは決して許されない行為であること、いじめが及ぼす心身への影響などを指導するとともに、当該児童の家庭環境や人間関係のストレスなど、行為に至った背景を把握し、当該児童及びその保護者に対して助言や支援を行う。
- ⑤いじめを見ていた児童にも自分の問題としてとらえさせ、今後、誰かに知らせる勇気を持つよう指導する。
- ⑥いじめをはやしたてたり、同調したりしていた児童に対しては、その行為がいじめに加担する行為であることを理解させるよう指導する。
- ⑦いじめの当事者間における争いを生じさせないように、いじめ事案に係る正確な情報に関係保護者と共有するために必要な措置を講じる。
- ⑧犯罪行為として取り扱われるべき事案については、茅ヶ崎市教育委員会学校教育指導課及び茅ヶ崎警察署生活安全課少年係と連携し対応する。

3 「いじめ検討会議」の設置

いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置をより実効的に行うため、「いじめ検討会議」を設置し、学校生活アンケート調査実施後に開催する。

なお、いじめと疑われる相談や情報が入った場合は、会議を緊急開催する。

1. 定例会

(1) 構成

構成員は、基本的に管理職・児童指導担当・教育相談コーディネーター・各学年より1名・養護教諭とする。

なお、事案内容に応じて、校長は第三者を招集する。

(2) 活動内容

- ①いじめ防止に係る取り組み内容の検討
- ②基本方針・年間計画の作成と実行、検証、修正

- ③「いじめ事案」の判断と情報収集
- ④事案に関する対応方法等の検討、決定

2. 緊急開催時

(1) 構成

いじめの発生が疑われる学年の職員

※対応の経過・結果は適宜管理職に報告する。

※事案の内容や、対応経過から、学年での対応が困難な場合は、管理職に報告・相談する。

※校長が事案内容に応じて、他の教職員や、依頼可能な第三者の参加を柔軟に検討し任命する。

(2)活動内容

- ・いじめに関する相談・通報
- ・いじめの判断と情報収集
- ・いじめの事案への対応検討・決定・報告

4 重大事態への対処

いじめにより児童の生命・心身又は財産に重大な被害が生じた場合や相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている等の疑いがある場合は、茅ヶ崎市教育委員会を通じて市長に報告し、教育委員会と協議の上、「緊急対策チーム」を設置し、迅速に調査に着手する。

(1) 「緊急対策チーム」の構成

構成員は、基本的に校長・教頭・児童指導担当・教育相談コーディネーター・当該学年職員・教育委員会担当者とする。

なお、事案内容に応じて、校長は教育委員会と協議の上、第三者を招集する。

また、外部構成員については、専門的知識及び経験を有する者とし、当該調査の公平性や中立性を確保するように努める。

(2) 「緊急対策チーム」の活動内容

- ①重大いじめ事案に関する調査
- ②被害児童及びその保護者への調査内容についての情報提供と説明
- ③茅ヶ崎市教育委員会への調査結果報告
- ④被害児童又はその保護者が希望する場合は、調査結果の報告